

2022 年度小委員会活動成果報告

(2023 年 1 月 26 日作成)

小委員会名	都市環境気候図実用化推進小委員会	主 査 名：十二村 佳樹 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (都市環境・都市設備運営委員会)	委員長名：秋元 孝之 主 査 名：吉田 聡
設 置 期 間	2021 年 4 月 ～ 2025 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>地域の気候に配慮した都市づくりを支援するためのツールとして都市レベルの都市環境気候図の提案、普及、体系化を進めると同時に、極端な高温化現象を背景とした街区レベルでの暑さ対策の検討、実践も行ってきた。</p> <p>本小委員会では、街区レベルの都市環境気候図を整備していくことを念頭に検討を進め知見を蓄積していくこと、そしてそれらに基づき今後各都市で同図を整備していく上での指針を作成することを目標とする。</p> <p>初年度: 街区レベルの都市環境気候図の整備状況について情報収集を行うとともに、オンライン研究会等を通じて情報交換を行うことで整備方法の詳細について検討する。</p> <p>2年度: 引き続き、情報収集と情報交換を行い整備方法の詳細について検討しながら指針(案)の作成に着手する。各都市で整備していく上での課題についても検討する。</p> <p>3年度: 引き続き、情報収集と情報交換を行い整備方法の詳細について検討しながら、課題に対する対応も含め指針(案)の修正を行う。</p> <p>4年度: 前年度の課題に対応したうえでここまで得た知見をまとめ、公開勉強会等を通じて情報発信する。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：十二村佳樹(岐阜大学) 幹事：橋高康介(神戸大学)、松尾薫(大阪公立大学) 委員：岩井一博(信州大学)、清田誠良、竹林英樹(神戸大学)、田中貴宏(広島大学)、鍋島美奈子(大阪公立大学)、鳴海大典(岡山大学)、増田幸宏(芝浦工業大学)、宮崎ひろ志(関西大学)、森山正和(神戸大学)、横山真(福山市立大学)、依田浩敏(近畿大学)、渡邊浩文(東北工業大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2022 年度予算	97,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	<ol style="list-style-type: none"> 都市環境気候図実用化および独自都市気候会議の開催(時期未定)に向けた情報交換を行った。 書籍刊行に向けて作業を進めた。
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> 実地活動の制限等による影響を最小限にとどめること。
委員会活動の問題点 ・ 課題	無

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2022 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	C
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>新型コロナウイルスの影響により、予定していた小委員会活動および独日都市気候会議等の延期が余儀なくされたことにより、これまでのところ当初計画を下回る進捗となっており総合評価はCとした。</p> <p>2021 年度</p> <p>街区レベルの都市環境気候図の整備状況について情報収集を行うとともに、オンライン研究会等を通じて情報交換を行うことで整備方法の詳細について検討することを目標として活動したが、小委員会内におけるオンライン勉強会を一度開催するにとどまってしまった。また独日会議については幹事の先生を中心に日程調整を実施するにとどまってしまった。</p> <p>2022 年度</p> <p>初年度に引続き、情報収集と情報交換を行い整備方法の詳細について検討しながら指針（案）の作成に着手し、各都市で整備していく上での課題についても検討することを予定していたものの、想定した進捗を下回ることとなった。独日会議開催についても引き続き日程調整を実施している段階である。</p> <p>次年度もオンライン開催が中心になると思われるが、参集しての会議と同等の会議運営ができるよう努める。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。